

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム暖
(ユニット名)	B棟
所在地 (県・市町村名)	雲仙市瑞穂町古部乙771-8
記入者名 (管理者)	小西 朝子
記入日	平成 20 年 2 月 15日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員集まり意見出し合いながら理念を作り上げた。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、その場にいるスタッフ(申し送り時)で、事業所の介護理念を斉唱し、実践できるよう努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や敬老会時地域の方が参加していただける時にはなしをしたりしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム近辺の散歩、買い物等にて少しずつ交流に努めている。利用者様も気軽に挨拶声掛けされているが、気軽に立ち寄ってもらえる方はあまり見られず、努力している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	可能な限り、地域行事に参加しているが、天候不順等で外出できない場合もある。自治会に参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>家族の相談ごとにはのっているが、地域の方となるとほとんど無い。</p>		<p>反対に町の老人会より雑巾の贈呈がある。今度職員で話し合いを行なっていきたいが、余裕が無い。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は自分たちのケアの振り返りとしてとても役に立っているが、外部評価は日中の数時間のみなのでどこまで理解されているのか評価されるのか疑問がある。だが第一インスピレーション、他施設との比較はしっかりして下さるでしょうから職員共々それを糧に改善に取り込むようにしている。</p>		<p>グループホームで難しい項目もあり、改善にどのように取り組めばよいか評価だけでなくアドバイスもいただきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>意見を率直に承り職員に周知させ、職員のやる気・また反省に役立たせている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>			<p>包括センターまで出向くことは無いが、市役所支所の介護担当者の方とはいろんな面でアドバイス支援をいただいている。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加している。権利擁護を利用され、金銭的にも安定され、本人の要望のものが購入できるようになられた。また貯金もできられた。</p>		<p>家族の権利擁護に対する理解と協力が必要なので、今後必要な方にはご本人社協と共に活用に向けて協力していきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>できる限りの講習会、勉強会等参加し、全職員十分に理解しており、これまではもちろん、これからは見過ごしが無いよう、利用者様の心に気づいていきたい。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>相談室を利用し、ゆっくりと話しやすい環境の下契約を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先に意見箱の設置を行っているが、使用することなく、直接職員へ話されているので、その都度対応、後日カンファレンスで協議することもある。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に報告。なかなか来られないご家族には、電話連絡で報告している。また暖メールに写真を多用し日々の様子を垣間見ていただけるよう作成し送付している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先へ意見箱の設置。なかなか面会に来られないご家族もいらっしゃるので、封書にてアンケートを送ったりしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>いつでも運営者に報告できるようにしている。できることはしてもらっている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務時間をずらしたり、延長勤務をしてもらってりして調整している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホーム内の移動は極力抑えている。ただ職員同士の関係等考慮し、A棟管理者との話し合いの元配置変換なる時がある。今年度は配置換えなし。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画は立ててないが、勤務年数、資格経験年数により受講する研修を選んで行かせている。またスキルアップの資格取得に向け研修等に参加できるよう支援している。	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケア研修会を利用している。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	連休や年休夜勤明けの翌日公休等ゆっくりしたシフトになるよう考慮し、極力希望休みはOKにしている。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格合格者にはお祝い金を忘年会時や全大会の中で贈呈している。支払える内でボーナスに反映させている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	全員ではないが入居前に面会を行っている。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時にゆっくり時間をとり話をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネも含め最善のサービスを行なっている。入院中も同様である。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイ利用でスムーズな入居を図りたいが、規則上難しい点がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ベッドで過ごされることが多かった方がリビングに出てこれシルバーカーで歩行されたりしてご本人共々喜びを分かち合っている。また食事などの作り方を教わり調理にも生かしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	会話を多く持ち、いろんな一こまをお話しし安心していただけるよう支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	中に入りコミュニケーションがスムーズになされるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を多くしてもらえるよう来訪しやすい雰囲気を作っている。またドライブで合いたい方の近くを通った際は、連絡し面会していただいている。		もっと家族に協力をお願いしていく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が中に立って会話に入ってもらったり、お互いできることはしていただき協力し合えるよう支援行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状や入院時はお見舞い、近況報告等し合っている。いつまでも相談にのってあげれることお伝えしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	談話等にて聞こえた希望等はケアプラン実行表などに記入し、スタッフ間で話し合い、その方が暮らしやすいようサービスを改善している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの情報提供をケアマネや事業所よりいただきまた連絡し相談あるときは訪問し把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントを取り職員の気づき点を報告してもらい毎日のケアに実践している。ケア記録簿・看護記録簿に毎日記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一月に1回はカンファレンス行い定期的な見直し行なっている。家族には面会時要望等お聞きしている。看護師医師とも受診時等を通して相談しケアプランにつなげている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院・退院後変化ある場合はは早期に作り直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護計画実行表への記入、申し送りでのスタッフ間での共有。1ヶ月に1回はカンファレンスを行い、スタッフ間で共有し、不満な点があった場合は、次月で実践し、改善できるようにしている。ケアプランをいつでも閲覧できるようにスタッフルームの棚に陳列している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の付き添い。その他行政手続き行なっている。入退院入所時の送迎等支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	擁護事業の活用。中学校の福祉体験の実習場所として協力。文化祭への作品発表。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養へのスムーズな入所支援。(待ちが短く済むようお願いしたりしている。)		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業は、包括支援センターではなく社協が担っている為、その担当者と連携し支援している。また今までの担当ケアマネとは特に困難事例等について報告相談している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診・1ヶ月に1度の安藤病院・松下皮膚科往診がある。遠距離のかかりつけ医や協力医協力の下、毎日の点滴等は当事業所の看護師によりさせていただいており、ご本人への負担軽減につながっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要でかつ家族の同意があった方は、家族同伴の元初診してもらっている。		島原保養院鶴崎Dr. 高城病院高城院長
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師公休日でも連絡取れる体制を作っており、緊急時はすぐ駆けつけてくれている。指導等行なってもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ソーシャルワーカーや医師と電話連絡や面談を通し早期退院に向けて支援している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に問う事業所の見取りに対する方針をお話しし同意を得ている。また重度化した場合はまずはご本人、ご家族の医師を大切に、医師とも相談しながら最良の支援を行なっている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	がん末期患者やカテーテル装着者などご利用様を職員医師と共にケアしてきた。もう一度慣れた環境の下ペグになる前に口から食べさせて元気にしてもらいたいとのご家族担当医師の要望ありケアした。その都度職員同士話し合い、家族にも協力お願いし医師にも状態報告してきた。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	解りやすい情報提供書を作成している。またおたがいに電話連絡し情報提供しスムーズに移行している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎日入居者様スタッフが笑顔でいることが大切だと理念に沿ったケアを行なっている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	会話を多くし解りやすい言葉で説明行なっている。指示するのではなく選択の場を多くもたせている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースにあわせた食事時間や就寝時間になっている。退屈そうに一日を過ごされる方もいる。	○ ずっと何かをしてもらうということは無理だが、もっと出来る楽しみややりがいを見つけ職員全員が支援できるようにしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は、本人の望む店に行っている。または、美容師に来てもらい、身だしなみは本人さんの好みに任せ、そっと手助けしたり、声掛け行っている。外出時女性の希望者には、化粧を勧め行っている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材をスーパーと一緒に買いに行ったり、どんな料理が好きなのか一人ひとりに声掛け行っている。スタッフが共に配膳したり、食器洗い食器拭きのできられる方には、手伝ってもらっている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日10時15時にお茶の時間を設けている。毎日とは行かないものの、誕生日や行事等にはお酒が好きな方には、ビールやジュースを提供している。(アルコール依存症だったので様子見で行っている。)	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なかなかトイレに行こうとされない方には、その都度声掛け誘導を行っている。排泄チェック表に記している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望により毎日入られる方もいる。一日おきには必ず入っていただくよう声掛け行っている。		曜日の感覚が解るように、日曜日は入浴や休みにしているが、希望あれば入浴してもらおう。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なかなか眠ることができない方には病院受診の時、医師本人さん・スタッフで相談し寝つきを良くする薬を処方していただいている。無理に眠られるようにするのではなく、スタッフルームで話をされたりテレビを見ながら休まれる方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	危険無いう料理・掃除の手伝いをしてもらったり、歌が好きな方にはカラオケを設置しているので、楽しんでもらったり、外出したい方にはドライブ買い物付き添い等してもらっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことにより安心される方には、お金を持っていただいている。(いくらもたれているか職員は、把握しておく。)本人が使いたい時に使ってもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日や入居者が外出されたい時は、極力外出するようにしている。買い物などに行きたいと言われるときはお連れする。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族より外出希望があった時は一緒に外出していただいている。外部との交流を図るため、いろいろな行事への参加をしている。季節ごとにドライブ・ピクニックに行っている。11月にはトロッコ列車にも全員参加した。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書きたいと希望があった時は、手紙を書いてもらい出しに行く。入居者様へ電話あった場合は、本人に代わり話して貰っている。電話希望の場合は、相手の都合に良い時間に掛けたり、妄想がひどい時は疑似電話で職員が相手になり不穏を軽減するよう努めている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時はその方にあったスペースでの面会を提供し(リビング・和室・相談室・居室など)お茶を出しゆっくりくつろいで話されるよう時には会話に入ったりして楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やマニュアルを通して職員全員理解している。身体拘束ゼロ推進員2名。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはチャームを付けて、もし無断外出されようとしてもすぐ分かるようにしている。日中はかぎは掛けていない。		防犯もあり3月より廊下奥にカメラ。外壁にセンサーライト、センサーを設置する。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の目の届かない場所(居室など)にいらっしゃる場合は、時々部屋を訪ね確認をとっている。夜は巡視行う。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	煙草ライターの管理・洗剤・はさみ等の管理など状況に応じて対処している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故マニュアルがあり防止に努めている。また定期的に防火訓練行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	今年度は行っていない。吸引使用は各職員で看護師指導の元練習している。(設置の仕方・吸引機の使い方)		消防署に協力願い、定期的に行うこととする。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練・消化訓練定期的に行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に説明している。また体調変化あった場合は、電話面会時に話している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを随時行い、全入居者の体調把握をしている。バイタルチェック時異常だったときは、その他の職員にも伝え共有している。また看護士に相談報告し指示を得ている。一ヶ月通しての看護記録簿記入して体調管理に努めている。		バイタルチェック時異常がないと油断し、観察が行き届いてないことがあり、徹底するよう指導する。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカルテに挟み、いつでも見られるようにしている。薬の変更あった場合、ケア一覧表の備考欄及び病院特記に記入し全員が把握に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	植物繊維多いものを食事に出したり、リハビリ体操などで体を動かす機会を作っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きの声掛けを行い、初めに自力で磨いてもらっている。きちんと磨けていない場合は、必ず確認をして介助行っている。(義歯をとって磨いてもらうよう声掛け行っている。)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限がある方に対して、良が少ないと感じさせないように飯の盛り方に気をつけたり、茶碗を小さめにした工夫している。日中はいつでもお茶を提供できるよう、ポットを食卓近くに置いたりしている。夜間は希望者のみにコップに入れ提供している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルあり。スタッフ・入居者さま共に手洗い嗽を実行している。汚物処理時手袋を使いハイター掃除している。現在も感染症なし。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類・調理器具類必ず乾燥に掛けている。フキン類ハイターに浸け消毒している。賞味期限が切れていないか常に確認している。持ち込みあった場合はスタッフ側で管理し期限切れのものを食べる事が無いよう注意を払っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は玄関などには鍵を掛けず、誰でも出入りできるようにしている。家族の面会が多いが地域の方の出入りは普段ほとんど無い。		地域の人との交流を深める為、夏祭りなど地域参加型のものを行って行きたい。(毎年敬老会には地区老人会の踊り等参加していただいている。)
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時期にあった飾りをおき季節感を出している。食卓より浴室が丸見えになることがある。(いつの間にか暖簾がはずされていた。)食卓より朝日が良く見えるので朝食時は皆さん喜ばれている。		以前に比べ花が少ない為、季節を感じられる花を飾りたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥にイスを設置しており、そこで何人かで話しをされている。ほとんど食卓ですごされることが多い		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や一部の家具を自宅から持ち込まれているが、わざわざ買ってこられたり、持込が少ないのがほとんど。		家族の方へ理解してもらい、使い慣れたものの持込を多くしたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気清浄機をつけている。(24時間)コーヒー豆の出がらしを消臭剤として利用している。オゾン発生器を設置している。(24時間)時々アロマオイルを焚いている。エアコンにて温度調整を随時行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から室内に上がる際に段差を作り(かまち)自宅と変わらないようなつくりにしてある。手摺をつけ伝い歩きや立ち上がりの機能訓練に生かしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口に名前を書いた札を掛けている。トイレ・浴室にも目印をつけている。食卓のテーブルに写真や名前を貼っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキを設けており、日光浴ができるようにしている。前庭にベンチを置き、お茶など楽しめるようにしている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

立地が良いこと。環境が良いこと。特にリビングから望む景色は素晴らしく別名『暖カフェ』とも言います(笑)。有明海の満ち干きや多良岳の上を流れる雲を眺めているととても気持ち良く何もしなくても心穏やかになる気がします。畑では季節の作物の農作業が見られ、自然と季節に浸れます。またすぐ前にスーパーがあり、いつでも買い物に歩いていけます。国道がその前を走っていますが、ちょっと引っ込んだだけでとても静かで皆さんの安眠をもたらしてくれています。ケアといたしましては、加齢と共に筋力はおちていきます。その予防防止策として、リハビリ体操を毎日楽しみながら行っています。「これをしないと一日が終わらない。気持ちがいい。」とおっしゃっています。また手作りパズルを一生懸命にされる方もいらしゃいます。今までしてきたこと出来ることをプランに取り込み、料理や洗濯の場、日常生活を利用して認知症や筋力低下防止に取り込んでいます。そしてまた、職員が馴染みの関係を作ってくれています。(退職者が少ない)。入居者の方もオープン初日と共に利用して下さっている方が2名いらっしゃいます。年は取られましたが(途中骨折入院や肺炎入院あり)とてもお元気にして下さっており、何より嬉しいのは、ご家族様の「ここが一番。」とお声をいただく時です。ご親族を(お一人目はお亡くなりになりましたが)続けて入居していただいたご家族もあります。これは、ありがたくとても喜ばしいことです。「暖は、居心地いいね。」とずっと言っていただけよう利用者様に寄り添ったグループホームでありたいと思います。